

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調査

都道府県名	山梨県	事業実施主体	山梨県、都留市、上野原市、忍野村、小菅村	地域再生計画名	甲斐の国富士東部地域再生計画
計画期間	平成27年度～平成31年度	評価責任者	山梨県 治山林道課長、道路整備課長、都留市 建設課長		

①地域再生計画に記載した数値目標の達成状況	指標	基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	中間目標値の実施状況に関する評価		
		基準年度		年度	中間実績	基準年度					
①地域再生計画に記載した数値目標の達成状況	指標 1	交流人口の増加	13,453千人	H26	13,708千人	H29	15,517千人	14,151千人	H31	○	計画道路の整備が一部完了した箇所により、市道、林道等との連携が向上し、山岳観光・拠点施設へのアクセスが改善され、交流人口は中間目標を達成している。
	指標 2	観光周遊ルートの総所要時間	19分	H26	17分	H29	18分	16分	H31	×	計画路線の整備が一部完了しており所要時間は減少しているものの、現状では中間目標を下回っている。
	指標 3	効率的な林業経営が可能となる人工林面積の増加	1,893ha	H26	2,090ha	H29	2,097ha	2,222ha	H31	○	計画路線の林道開設及び森林環境保全整備事業の林業専用道開設により、中間目標が達成された。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の発現状況	指標 1										
	指標 2										
③事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容）			事業進捗に対する評価						
特別措置を適用して行う事業	市道整備事業（整備延長）	0.60km	0.27km	0.60km	都留市道の整備においては、用地交渉において難航箇所もあるが、同時に整備した道の駅「つる」が供用開始され、駅利用者の安全な通行・入込み客の増加に寄与している。利用者の増加により懸念される渋滞等の解消のため、残りの整備区間においても、引き続き市道の拡幅を実施したい。						
	林道整備事業（整備延長）	14.60km	6.60km	14.60km	国費の緊縮等により進捗が伸び悩んでいるが、森林環境保全整備事業でカバーし、効率的な林業経営が可能となる人工林面積の増加を図ることができた。今後は目標達成に向け予算獲得を図る。						
その他の事業	森林環境保全整備事業（林道）	面的にまとまって計画的に行う撤出間伐等の森林施業と、これと一体となった林業専用道の開設を行う。			林業専用道の開設を積極的に進めており、林業経営の効率化に寄与している。さらなる林業振興を図るため、事業を継続して進めて行く。						
	観光地の魅力向上（都留市）	パンフレット、ホームページにより、観光のPRを推進していく			道の駅つる内の観光案内所等における観光情報やパンフレットの提供により、観光PRの推進を図っている。						
	地域交通対策事業（都留市）	公共交通バスの利用者が減少するなか、「地域の足」の確保及び路線の維持を図るため、東桂地域と盛里地域の低利用路線を廃止し、代わりに予約型乗合タクシーを運行する。また、市内病院やスーパー、公共機関、鉄道駅に接続する市内循環バスを運行することにより、市内外の移動手段の確保及びアクセスの向上を図る。			<ul style="list-style-type: none"> ・市立病院を起点とし商店街や医療機関、公共施設を循環する市内循環バスを年末年始を除き6便/日運行している。 ・市内循環バスの運行区域外を予約型乗合タクシーで補充することで「地域の足」を確保している。 ・市内循環バス及び予約型乗合タクシーの利用方法等について、市民向けの出前講座を実施し、市内公共交通の利用率向上を図っている。 						
	中心市街地整備事業（都留市）	自然減以外の転入・転出等社会的要因による人口減を抑制し、市の人口維持を図るため、連続して5年以上市外に住んでいた方が市内に転入し、且つ中学3年生以下の子を監護する父または母に対し、住宅取得費等を給付する。			<ul style="list-style-type: none"> ・遠距離通勤費の助成や市営住宅の家賃減免等により、人口減少の抑制を図っている。 ・東京圏に程近い距離にありながら、清冽な水や恵まれた自然環境があること、また、最大の特徴である3つの大学（都留文科大学、健康科学大学及び県立産業技術短期大学校）がある点を活かし、東京圏のアクティブ・シニア（元気な高齢者）を対象に、事業者によるサービス付き高齢者向け住宅の整備を行い、本市への移住を促進し、きらくような人生を送ることのできる、大学連携型「生涯活躍のまち」構想を推進している。 						
計画外で独自に実施した事業	県単独林道事業（林道）	山岳観光のアクセス道として利用の高い林道や沿線住民の生活用道路である林道を改良し、山村地域の振興と定住環境の改善を図る。			計画対象路線の事業実施により、山村地域の振興に寄与し、あわせて地域住民の通行の安全も確保した。今後も継続して整備を進めていく。						
④評価方法	地域再生計画評価会議を立上げ、中間目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。										
⑤中間評価の公表方法	山梨県のホームページに掲載										
⑥計画全体の総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・本地域再生計画では、市道、林道を一体的に整備することにより効率的な道路ネットワークを構築し、地域内交流人口の増加を図り、地域全体の活性化を目指す計画である。これまでの整備により、中間年時点の交流人口が基準年（H26年）に対し、大幅に増加しており、中間目標を達成している。 ・中間年までの整備実績において、一部で用地交渉が難航しているところもあり、観光周遊ルートの所要時間は中間目標には達していないが、道の駅周辺交通安全の向上・渋滞解消に効果が出ている。 ・また、森林環境保全整備事業においても、当該交付金に合わせて積極的に実施することにより、効率的な林業経営が可能となる人工林面積も増加し、中間目標値を達成することができた。 										
⑦今後の方針等	<ul style="list-style-type: none"> ・市道整備については、用地交渉が難航している区間が残っており最終目標に掲げた観光周遊ルート総所要時間の短縮が未達成であるので、地元の協力を得ながら最終目標達成に向け引き続き事業の進捗を図る。 ・さらなる交流人口の増を図るために、観光地間のアクセス改善のための市道整備（拡幅等）、林道整備を一体的に進める。一方、森林環境保全整備事業等のその他事業についても、引き続き実施することにより総合的に地域の魅力向上に努力する。 										

地域再生計画 中間評価参考資料

都道府県名	山梨県	地域再生計画の名称	甲斐の国富士東部地域再生計画			
施行主体	山梨県、都留市、上野原市、忍野村、小菅村	計画期間	平成27年度～平成31年度			
地域再生計画の概要	<p>山梨県の東部及び南東部に位置する富士東部では人口減少及び高齢化の進行に加えて、道のネットワークが未整備であることから北部の雁ヶ腹摺山や小金沢溪谷等の豊かな自然と葛野川・深城ダム等の観光資源、また世界文化遺産に登録された富士山などの観光資源を十分に生かせず地域活力の低下の要因となっている。そのため、市道及び林道の一体的な整備に加えて、情報発信、地域交通対策等の観光に係る取組を行うことにより、林業経営の効率化、観光地間のアクセス利便性を向上させ、観光客の増、森林資源の増などの地域再生を図る。</p>					
地域再生を図るために 行う事業	<p>北部においては、大月インターチェンジから溪谷美豊かな雁ヶ腹摺山・葛野川ダムや深城ダム方面へのアクセスを目的として、「林道奈良子線」「林道真木小金沢線」の改良・舗装事業の早期の完成を図る。 さらに、東部においては来訪観光客の安全・安心な通行を確保するため、大月市と南都留郡道志村とを結ぶ「市営林道富士東部（北）線」、「市営林道富士東部（南）線」の整備を図る。 中部は、大月・都留インターチェンジから山梨県立リニア見学センターのアクセス向上を目的として、都留市の「市道大原線」の整備を行い観光アクセス道路として、整備する。 これらにより、富士東部エリア全体として市道・林道と既に整備済みあるいは今後整備予定である高速道路や県道等との連携が図られ、観光地間をつなぐ安全・安心なアクセスルート網が構築される。 加えて、森林施業における効率化と生産コストを抑えることで、林業・木材産業の生産活動を向上させ、林業の振興を図っていく。また、住民の利便性の向上や災害時の孤立への不安の払拭も図ることにより、全体的に地域に潤いがもたらされる。</p>					
主な計画道路の 整備状況写真	林道 奈良子線 (着工前)	(H29末時点)	林道 鹿留線 (着工前)	(H29末時点)	都留市道 大原線 (着工前)	(完成)
						
主な計画道路の 整備状況写真	市営林道富士東部（北）線 (着工前)	(H29末時点)	市営林道富士東部（南）線 (着工前)	(H29末時点)	道の駅つる H28.11.5オープン	
						